



2003年8月10日撮影。

戸梶始さんは浦戸湾のベテラン漁師です。この日、立派なウナギを2匹頂戴しました。市内はよさこい祭りでにぎやかでしたが、雨の中で調査をしていた学生諸君へのプレゼントです。

石麻呂尔 吾物申
夏瘦尔 吉跡云物曾
武奈伎獲喫

いわまろに吾もの申す
夏やせによしという物ぞ
むなぎ獲り食(め)せ
大伴家持がひどく瘦せこけて



2004年6月1日に灘で採集されたウナギ。

いた医者吉田連(よしだのむらじ)石磨をからかった歌です。武奈伎が胸黄(むなぎ)となり、鰻になったとされています。天然のウナギは黄色をおびていますが、養殖ウナギは灰青色をおびます。ごく最近、日本のウナギがマリアナ諸島近海の深海で産卵するのが解明されました。幼生はレプトケファルスと呼ばれ、「のれそれ」に似ています。沿岸付近で急激に細長く変態して川を上り、7~8年を過ごします。県内の河口付近には春から夏に、遡上直前のウナギがいます。

2005年3月2日発行 発行者：町田吉彦(理学博士、高知大学理学部教授、
四国自然史科学研究センターセンター長)

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310(町田研究室直通)でお願いします。